

平和博物館、平和博物館建設運動の現状と課題

山根 和代

I. はじめに

現在「平和のための博物館・市民ネットワーク」の英文通信“Muse”で、私は日本各地の平和博物館の活動、戦争遺跡保存運動、平和博物館建設運動の活動などをまとめている。今、それは立命館大学国際平和ミュージアムから、海外の平和博物館、平和研究所、平和団体などに送られている。また平和博物館国際ネットワークのニューズレターの内容を、1992年以来日本語で紹介してきた。最初は高知市にある平和資料館「草の家」便りで紹介してきたが、1999年以降「ミュージアム」で紹介している。

日本は、国際的に平和博物館の数が多く、その活動も活発である。その現状と課題を明らかにするために、2001年8月に全国の平和博物館約50館に対して、アンケート調査を行った。また戦争遺跡を保存し、今後平和博物館（平和資料館、平和祈念館）を建設したいと取り組んでいる9団体に対してもアンケート調査を行った。まず平和博物館と平和博物館建設運動の現状をアンケート調査に基づいて把握し、今後の課題を明らかにしたい。

その際、「平和博物館とは何か？」という定義の問題がある。これは1992年第1回平和博物館国際会議がイギリスで開催されて以降、常に論議されてきた。1998年大阪国際平和センターと立命館大学国際平和ミュージアムで開催された第3回平和博物館国際会議で、ヨハン・ガルトウング氏は、「平和博物館は、人びとに平和に関する情報を提供し、その目的を達成する方法を提示する所」と定義された。現在世界には、反戦博物館、平和博物館、ホロコースト博物館、抵抗博物館、平和を目指す美術館など、様々な博物館、美術館がある。1998年に国連で出版された「世界の平和博物館」というガイドブックには、抵抗博物館やホロコースト博物館は含まれていない。しかし平和の実現を目指す博物館・美術館は、「平和のための博物館・美術館」とまとめて呼ぶことができよう。アンケート調査の中で、「我が館は、平和博物館ではないので、回答できませ

ん」という返事が、ある美術館からあった。確かに平和博物館ではないが、しかし訪問してみると、反戦・平和を目指して活動をしており、「平和のための博物館・美術館」のひとつと考えても差しつかえないと思う。

また戦争博物館や軍事博物館と平和博物館の間には、明らかな相違がある。戦争を美化している戦争博物館は、到底平和博物館と呼ぶことはできない。アンケート調査では、そのような博物館に対しては、調査を行わなかった。もっとも、調査をしたある博物館が、平和博物館と言えるかどうか不明であるものも含まれているし、調査をしていない平和博物館も若干あるので、完全な調査ではないことを記しておこう。

II. 平和博物館の現状について

アンケート調査を行う際、「平和博物館 戦争資料館ガイドブック」（歴史教育者協議会編、青木書店）を参考にした。アンケートは48館に出し、回答は43館からあった。回答の中には、平和博物館ではないので（平和美術館のため）アンケートの回答はしなかったものの、資料を送ってきたところがあった。アンケートでは、平和博物館建設の目的、平和博物館建設の方法、展示の内容、活動方法、平和のための博物館・市民ネットワークや平和博物館国際ネットワークを知っているかどうか、訪問者の来訪のための工夫、また訪問者の感想文の出版などについて調査した。その結果は、次の通りである。

1. 平和博物館建設の目的

平和博物館の目的を知るために、該当する番号を選択して回答する質問と、自由に建設目的を書く欄を設けた。まず、次のような質問をした。

どのような目的で、平和博物館、平和資料館を開館されましたか。適切な回答がない場合は、その他に御記入下さい。

(1) 教育

- ①学校教育（生徒の訪問、学校への展示物の貸し出し、講師や語り部の派遣など）
 - ②地域での教育（展示、講演会、ワークショップなど）
 - ③その他（出版など）
- (2) 市民の諸問題への関心を高める。
 - (3) 非暴力の考えを普及する。
 - (4) 紛争解決の能力をつける。
 - (5) 国際理解の促進をする。
 - (6) 人々が平和のために、もっと活動するように促す。
 - (7) 戦争遺跡などを保存する。
 - (8) その他

その結果は、次の通りである。各館は、該当する項目を選択したため、一館が複数の回答をしている。結果は、次のように数字で表し、またグラフでも表示した。

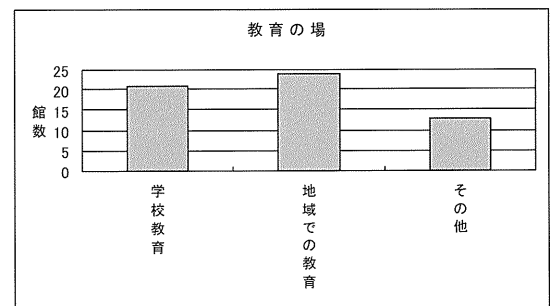
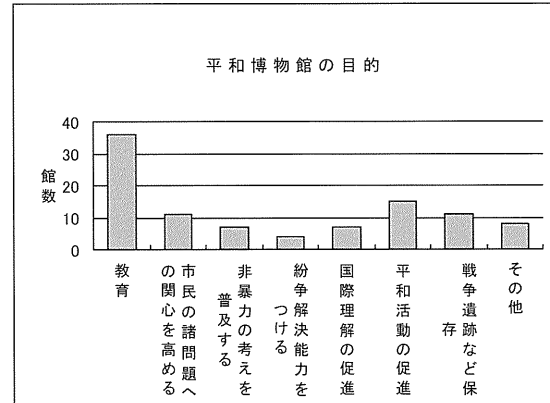
目的	館数
教育	36
市民の諸問題への関心を高める	11
非暴力の考えを普及する	7
紛争解決能力をつける	4
国際理解の促進	7
平和活動の促進	15
戦争遺跡など保存	11
その他	8

なお「その他」の内容として、追悼・祈念の場、国際交流の場、関連諸団体の交流の場、調査・研究機能をもつ施設、絵画を通して平和の実現を願う場、被爆者同士の交流の場、遺品（絵画、書簡など）の保存、平和運動や命の尊さを伝える場が挙げられていた。

また教育の分野での結果は、次の通りである。

目的	館数
学校教育	21
地域での教育	24
その他	13

その他の内容として出版がある。平和教育の教材になるような出版物は、貴重である。



平和博物館の建設目的を多い順に見てみると、教育、特に学校教育だけでなく、地域での教育に重点を置こうとしていることがわかる。学校教育では主に次の世代の教育がなされるが、地域での教育は、子どもから高齢者まで幅が広い。

再び戦争を起こさないために、平和活動の促進が重視されている。市民の平和活動を促進する以前の問題として、市民の諸問題への関心を高めることが重要であるが、約四分の一の平和博物館がそれを目的としている。

戦争遺跡などの保存を目的として、平和博物館を建設した所もあることがわかる。だが「国際理解の促進」を目的の一つにしている所は、意外に少ない。このことは、海外の平和博物館と交流をしている所が少ないということと無関係ではあるまい。また「非暴力の考えを普及する」ことを目的としている所も、少ない。「紛争解決能力をつける」という回答も、比較的少なかった。海外の平和博物館・美術館、例えばイギリスのブラッドフォードにあるピースギャラリーでは、紛争の解決能力をつける取り組みがなされている。日本では、ヨハン・ガルトウン博士が、「紛争の転換」をテーマにワークショップを開催されているが、平和博物館における取り組みはあまりなされていないのが現状である。

平和博物館の建設目的を選択する項目と同時に、「どのような考えで、平和博物館・平和資料館の建設をさ

れましたか」という質問を用意し、それに対して様々な回答が寄せられた。回答の文が長い場合、要約して記入したが、次の通りである。

* 沖縄の歴史的体験と現実を踏まえ、次世代へ教訓を継承し、平和行政を推進するため。(沖縄県平和祈念資料館)

* 戦争の恐ろしさと平和のありがたさを次世代に知らせる。米軍基地として奪われた土地を取り戻す。(沖縄県 ヌチドウトカカラの家)

* 特攻隊員の遺品や関係資料を収集・保存・展示し、その記録を後世に残し、世界の恒久平和に寄与する。(知覧特攻平和会館)

* 被爆の実相と長崎市民の平和の願いを広く国の内外へ伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与する。(長崎原爆資料館)

* 市民が日本の加害の真実を知り、戦後補償の実現と非戦の誓いのために献身することを願う。(岡まさはる記念長崎平和資料館)

* 死んだ兵士の遺品、残された実物資料を主として、人にかわってモノに語らせたかった。建前、本音、双方をありのままに、客観的に、見方はそのひとの自由で、誘導はしない。(福岡県 兵士庶民の戦争資料館)

* 戦争体験を若い世代に伝え、戦争に関する正しい知識を提供し、非暴力で問題解決につとめる努力をするため。(高知市 平和資料館「草の家」)

* 自由民権思想の継承と発展(高知市立自由民権記念館)

* 「ドイツ館」のある鳴門市郊外の旧板東町に、「模範収容所」と言われ、地元の人々も含めた日独の交流の基盤となった収容所があったことを活用。その意味と、未来にわたって国際交流の意味を考え、育てる一つの拠点としたい。(鳴門市ドイツ館)

* 高松空襲などにおける市民の体験に基づき、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えるとともに、平和を願う市民の心を永久に継承していく。(高松市市民文化センター平和記念室)

* 原子爆弾の被害の実相をあらゆる国々の人々に伝え、ヒロシマの心である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与する。(広島平和記念資料館)

* 恒久平和を願い、平和学習の場として建設。(大久野島毒ガス資料館)

* 部落差別をはじめとするあらゆる差別、人権侵害の解消と、世界の恒久平和を実現するために、今を生きる私たちがすべき課題について提起する。(福山市

人権平和資料館)

* 戦争の事実を保存するため。(岡山県 平和資料室「民草」)

* 片山潜の思想を出生地で、さらに理解を深める。(岡山県 片山潜記念館)

* 沖縄戦の悲惨さ(兵隊、住民)を伝えたい。(岡山県 柴田平和祈念館)

* アンネの理想を実現したい、また若者に受け継いでほしいと願って建設された。(兵庫県 聖イエス会 アンネのバラの協会)

* 戦争の惨禍と平和の尊さを後世に伝え、平和な社会の発展に寄与する。(姫路市平和資料館)

* 戦争体験を次世代に伝え、世界の平和と繁栄に積極的に貢献する。(大阪国際平和センター)

* 平和で明るく住みよい社会の実現に資するために開設。(吹田市平和祈念資料室)

* 戦争の悲惨さ、平和の尊さ、人権擁護の大切さを訴え、次世代に伝える。(堺市平和と人権資料館)

* 石垣栄太郎の絵を通して、社会情勢を訴え、平和を願って建設(和歌山県 石垣記念館)

* 寺中靖直の作品を保存し、平和、反戦のため。(和歌山市 寺中美術館)

* 戦争遺品、資料などを保存展示するため。(和歌山市 平和祈念資料館)

* 立命館大学の教学理念である「平和と民主主義」を具現化するため。(立命館大学国際平和ミュージアム)

* 引揚港としての歴史(史実)を残す。(舞鶴引揚記念館)

* 学校及び地域での教育を含め、21世紀の平和づくり文化づくりのための、地域に根付いた活動の資料センター。(福井県 ゆきのした文化協会)

* 平和推進事業の拠点として、市民の平和意識の啓発、向上と、行動の喚起に資することを目的として建設。(川崎市平和館)

* 1954年3月1日ビキニ水爆実験による被災船、第五福竜丸を永久保存、展示し、原水爆の恐ろしさと世界平和の大切さについて、広く知らせる。(都立第五福竜丸展示館)

* 戦争の惨禍を次代に語り継ぎ、平和の研究と学習に役立つ場として建設。(東京大空襲・戦災資料センター)

* 県民に戦争の悲惨さ及び平和の尊さを伝えることにより、県民の平和に対する意識の高揚を図り、もって平和な社会の発展に寄与する。(埼玉県平和資料館)

* ヒロシマへの原爆投下直後の惨状を描いた「原爆の図」を、常設で見ることができる場所が欲しいという声に応じて、丸木夫妻が建設した。(埼玉県 丸木美術館)

* 日本が二度と侵略を繰り返さないようにするため。日本が南京大虐殺をはじめ、日清戦争以降のアジア侵略を自ら明らかにするように。(自ら覆い隠すのではなく) (埼玉県 翁抗日反戦美術館)

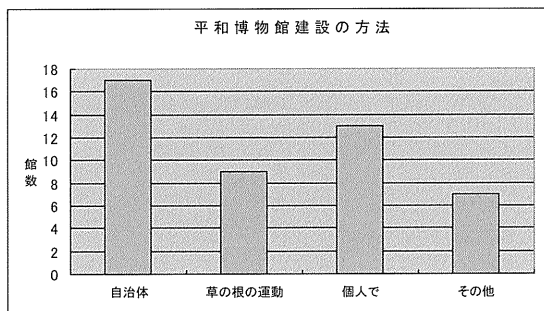
* 被爆者同士の交流の場、教育の場として。(北海道 ノーモア・ヒバクシャ会館)

平和の実現を目指し、各地域に関連した様々な問題を取り上げて、平和のための博物館や美術館を建設していることがわかる。原水爆や空襲の被害などの「戦争の被害」の側面、加害の側面、反戦・平和主義者の生き方、人権問題など、様々な問題を取り上げている。また芸術を通して、反戦平和の重要性を訴えようとしている美術館の存在も貴重である。

2. 平和博物館の建設の方法

平和博物館の建設方法は、下記の通りである。自治体が建設した所が多いが、その背後に草の根の運動が存在したことを忘れてはならないであろう。また自治体で建設することを望んでもなかなか実現せず、草の根の運動や個人で建設した平和資料館が多い。さらにこれから平和博物館を建設したいと取り組んでいる団体があることは心強く、これは後程触れてみたい。

建設方法	館数
自治体	17
草の根の運動	9
個人で	13
その他	7



3. 展示の内容

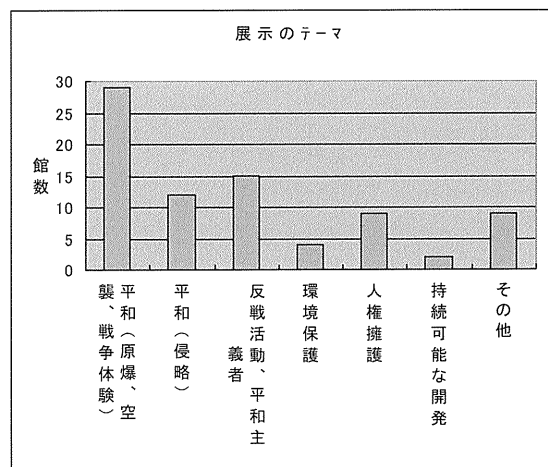
展示のテーマを調べるために、次のような質問をした。

どのようなテーマで、展示をしていますか。

- (1) 世界の平和
 - ①原爆、空襲を含め、戦争体験（戦争の被害の側面）
 - ②日本の他国への侵略（加害の側面）
 - ③反戦活動家・平和主義者
- (2) 環境保護
- (3) 人権の擁護
- (4) 持続可能な開発
- (5) その他

その結果は、次の通りである。

テーマ	館数
平和（原爆、空襲、戦争体験）	29
平和（侵略）	12
反戦活動、平和主義者	15
環境保護	4
人権擁護	9
持続可能な開発	2
その他	9



展示のテーマとして、平和の問題、特に原爆や空襲など被害の側面に関する展示が多い。それとは対照的に、日本の侵略を取り上げているところは、比較的少ない。1990年代に公立の平和博物館が日本の加害の側面を取り上げると、右翼からいやがらせがあり、展示が減少していった。なぜ日本の平和博物館で、加害より被害の側面が強調されてきたのか、その結果、世論にどのような影響を与えたのか、また人々の歴史認識がどのようになり、その国際的な影響はどうであるのかなど、考える必要があろう。

日本の加害の側面を扱っているのは、立命館大学国際平和ミュージアム、岡まさはる記念長崎平和資料館、

堺市にある平和人権子どもセンター、平和資料館「草の家」などがある。歴史教科書に十分書かれていないので、このような場所を訪問することは、重要である。

反戦活動や平和主義者に関する展示は、教科書に書かれることが少ないため、貴重である。学校における歴史の授業では、戦争の歴史に重点が置かれている。なぜ戦争が起こったのか、どうしたら防ぐことができたのか、どんな人々がなぜ戦争に反対したのかなど、「考える歴史教育」は、あまりなされず、暗記中心の教育、入試に合格するための教育というゆがんだ教育がなされていることが多いのが現状である。そのような中で、平和博物館を訪問して学校で取り上げられていない歴史や先人の生き方に触れることは、重要である。人権が保障されない状態は、平和とは言えない。人権をテーマに取り組んでいるものとして福山市人権平和資料館、堺市平和と人権資料館、平和人権子どもセンター（堺市）、大阪人権博物館、自由民権記念館（高知市）などがある。各館によって展示が異なるが、大阪人権博物館では、英語、ハンゲルでの説明があるため、海外の訪問者が理解できるように対策を講じている。他の博物館でも、外国人が理解できるように配慮する必要がある。

環境問題も、国際的に解決しなければならない重要な問題である。高知市の平和資料館「草の家」では、「憲法の森」を創り、実際に植林をしているが、その点は、注目する価値がある。

開発問題をあまり取り上げていないが、南北問題など解決をしていかないと、真の平和は実現できない。日本の博物館で、もっと重視すべき分野と言えよう。

4. 活動方法について

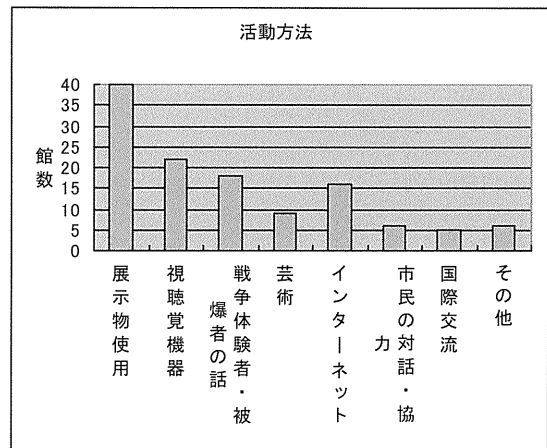
どのように活動をしているのかを知るため、次のような質問をし、その結果は下記の通りである。なお各館では、該当する項目をすべて選択したため、複数の回答をしている。

どのような方法で、活動をしていますか。

- (1) 展示物の使用
- (2) 視聴覚機器の使用
- (3) 戦争体験者、被爆者の話
- (4) 芸術（詩の朗読、コンサート、美術展など）
- (5) インターネット：ホームページ（もしあれば、アドレスの記入をお願いします。）
- (6) 市民の対話、協力（NGOなど）
- (7) 国際交流

(8) その他

活動方法	館数
展示物使用	40
視聴覚機器	22
戦争体験者・被爆者の話	18
芸術	9
インターネット	16
市民の対話・協力	6
国際交流	5
その他	6



展示物の使用が圧倒的に多いのは、平和博物館・資料館としては当然であろう。また視聴覚機器とインターネットの活用も、多いことがわかる。戦争体験者や被爆者の話については、高齢化のため、今後困難になっていくであろう。語り部の話をビデオに撮って、それを活用することが重要になってくると考えられる。芸術を通して平和の実現を目指す活動は、特に若者にとって参加しやすいと言えよう。高知の平和資料館「草の家」では、アメリカがアフガニスタンを攻撃したことに抗議し、音楽愛好家が集まってピースライブが数回開かれた。芸術を通して平和を実現することを、国際的に広げる活動が存在しているが、そのようなネットワークと協力することが望ましい。平和博物館が、市民の対話、協力の場となっている所は、比較的少ない。また国際交流を行っているところも、多くない。これらの分野をもっと活発にしていくと、平和博物館の活動内容が、もっと幅広くかつ深くなっていくのではないだろうか。特に、語学力があり、パソコンを使える若者が力を発揮すれば、全国的にも国際的にも協力して、よりよい活動が展開できると考えられる。

5. 平和博物館のネットワークについて

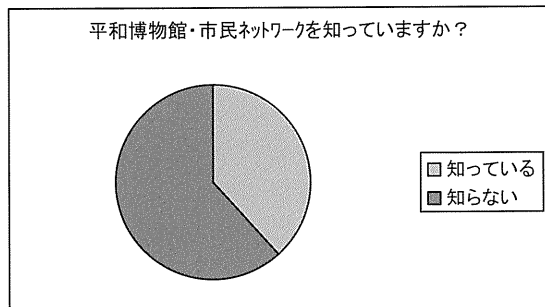
1998年に平和博物館国際会議が、大阪と京都で開催

された際、「平和のための博物館・市民ネットワーク」が作られ、海外と国内の平和博物館のニュースを載せた「ミュージズ」と、日本の平和博物館や平和博物館建設活動のニュースを載せた英文Museを発行することが決められた。高知市にある平和資料館「草の家」が事務局を担当してMuseは約60か国、ミュージズは200名に送られた。2001年から立命館大学国際平和ミュージアムに事務局が移され、現在に至る。

アンケートでは、平和博物館の国内ネットワークである「平和のための博物館・市民ネットワーク」と、国際ネットワークの存在を、どれほど知っているかを調査した。またその通信をどの程度知っているかも調査した。調査の結果は、次の通りである。

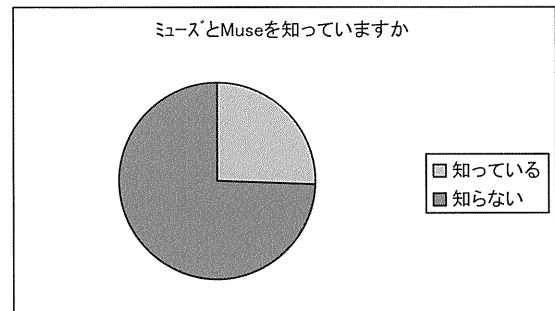
平和のための博物館・市民ネット	館数
知っている	16
知らない	26

市民ネットの意義	館数
情報入手、交流に良い	12
強化すべき	6
その他	4



ミュージズとMuseについて	館数
知っている	10
知らない	29

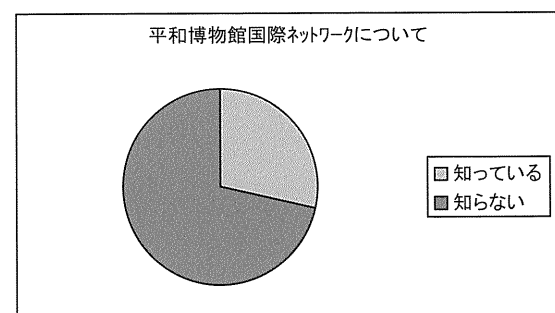
通信の意義	館数
情報入手、交流に良い	11
良くない	0
その他	1



アンケート調査の結果、日本の国内ネットワークとその通信を知っている人が少ないことが明らかになった。

また平和博物館国際ネットワークを知っている人の数も、想像以上に少なかった。国際会議について簡単に触れると、これまで第一回平和博物館国際会議（イギリスのブラッドフォード大学）が1992年、第二回国際会議（オーストリアのシュライニングにあるヨーロッパ平和大学）が1995年、第三回国際会議（大阪国際平和センターと立命館大学国際平和ミュージアム）が1998年というように、3年ごとに開催されてきた。しかし諸事情で第四回国際会議が2001年に開かれず、2003年に延期され、5年の空白期間の影響は大きいと考えられる。

平和博物館国際ネットワーク	館数
知っている	10
知らない	28



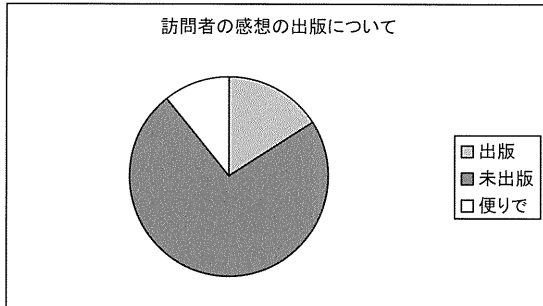
当面2003年5月にベルギーで開催される第四回国際会議への参加者を募り、交流を活発にすることが重要であろう。

6. 訪問者について

平和博物館、平和資料館では、訪問者の感想文を何らかの形でまとめているところがある。

その調査結果は、次の通りである。

訪問者の感想文	館数
出版	6
未出版	28
便りで	5



ひめゆり平和祈念資料館のように、訪問者の感想を本という形で出版している所は少ないが、各館の通信などで出しているところがある。

また訪問者が再び訪問するよう、どのような対策を講じているのかを質問した結果、次の通りである。

再訪問のための工夫

- * 沖縄県平和祈念資料館～学校の平和学習支援
- * ひめゆり平和祈念資料館～定期的な企画展、常設展示のリニューアル
- * 長崎原爆資料館～年に3～4回企画展示の内容を変える。被爆者の描いた絵の展示など
- * 岡まさはる記念長崎平和資料館～展示の充実、パンフ作成、案内情報提供
- * 兵士・庶民の戦争資料館～1か月ごとに企画展、ユニークな展示（ビルマ原産夜香木の栽培など）
- * 平和資料館「草の家」～様々な草の根行事を、党派にとらわれずやっている
- * 高知市立自由民権記念館～魅力的な企画展の開催
- * 鳴門市ドイツ館～俘虜の「第九」演奏の再現演奏会、ドイツ会の食事付音楽会との連携など
- * 高松市民文化センター平和記念室～市役所ロビーでの展示、講演会、映画祭、便りの発行、小中学の平和学習
- * 広島平和記念資料館～年2回企画展、前年度に寄贈された資料を、新年度に展示。「市民が描いた原爆の絵」の展示の更新
- * 大久野島毒ガス資料館～スペースが限られている中で、創意工夫をして取り組みたい
- * 福山市人権平和資料館～企画展の開催、職員によ

る展示の説明、関連資料の配布（持ち帰り自由）、資料館便りの発行

- * 福山ホロコースト記念館～展示物の入換え。ホロコーストセミナー：2～6月、月1回を5回連続。子どもホロコーストセミナー
- * 柴田平和祈念館～テレビ、新聞等で紹介する
- * 聖イエス会アンネのバラの教会～毎年バラの咲くシーズンにホロコーストに関する展示開催。ホームページ。大学生による大学祭での展示
- * 姫路市平和資料館～企画展ごとに関係各位にチラシ等送付。学校関係者への働きかけ
- * 大阪国際平和センター～企画展および企画事業の実施、友の会入会の勧誘、展示リニューアルの検討
- * 吹田市平和祈念資料室～平和映画会の開催（毎月第2、4土、日）。年に1度企画展を実施
- * 堺市平和と人権資料館～平和や人権について身近に感じ考えてもらえるような企画
- * 石垣記念館～展示物だけでなく、色々なイベントを企画。年に2回前庭にて蚤の市をしている
- * 寺中美術館～新聞社に協力を要請
- * 立命館大学国際平和ミュージアム～魅力ある特別展を開催すること
- * 都立第五福竜丸展示館～年2回（6、11月）の展示替えの機会を活用し、最適なトピックを取り上げるよう絶えず工夫をしている
- * 埼玉県平和資料館～企画展などを含めた展示の充実。戦争体験者との集い、講演会、映画会等の学習機会の提供。効果的な広報
- * 丸木美術館～戦争、平和をテーマにした企画展の実施
- * 翁抗日反戦美術館～居住性を重視、学習室、自主学習会、合宿も希望により可

以上の内容から、各平和博物館で、訪問者が再訪するように様々な工夫をして取り組んでいることがわかる。国内のネットワークを通して、もっと相互に展示物などについて交流をすると、お互いに活動内容を豊かにすることができるであろう。さらに国際ネットワークを通して、展示物の貸し出しなどの国際交流をすると、相互理解と信頼の構築につながり、国際平和に寄与することが可能になるであろう。

Ⅲ. 平和博物館建設運動の現状について

今後、平和博物館を建設したいという9つの団体に、アンケート調査を行った。団体名は、

「北九州平和資料館をつくる会」、
 「はりまピースセンター」、
 「京都平和資料事業センター」、
 「静岡平和資料センター」、
 「岐阜市平和館をつくる会」、
 「浅川地下壕の保存をすすめる会」(東京)、
 「新宿平和委員会」、
 「松代大本營の保存をすすめる会」、
 「宇都宮平和祈念館をつくる会」

である。

また質問の内容は、次の通りである。

平和博物館建設の目的、
 平和博物館建設の方法、
 展示の内容、活動方法、

「平和のための博物館・市民ネットワーク」、「ミ
 ューズ」、「Muse」、「平和博物館国際ネットワーク」、
 そのNewsletterを知っているか、

印象に残った平和博物館、
 建設運動の困難さ

アンケート調査の結果は、次の通りである。

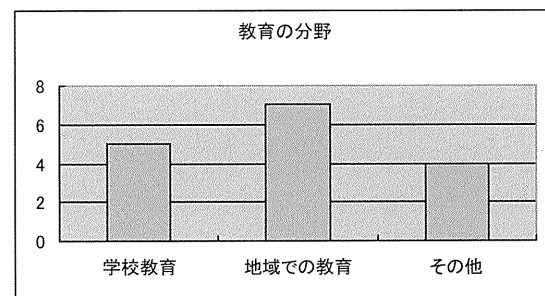
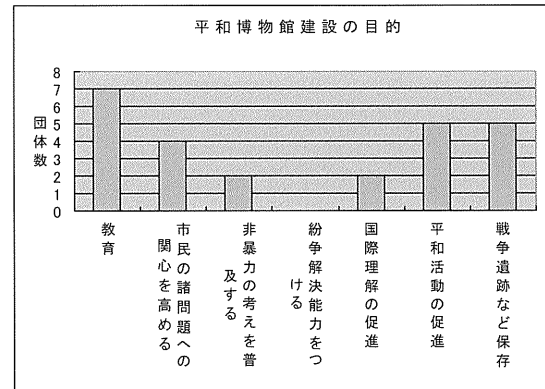
1. 建設の目的

どのような目的で、平和博物館を建設したいのかを
 問う質問に対して、各団体から複数の回答があった。

目的	団体数
教育	7
市民の諸問題への関心を高める	4
非暴力の考えを普及する	2
紛争解決能力をつける	0
国際理解の促進	2
平和活動の促進	5
戦争遺跡など保存	5
その他	0

教育の分野

目的	団体数
学校教育	5
地域での教育	7
その他	4



戦争体験者が高齢化している中、戦争遺跡のような「物」を活用して、教育を行い、諸問題への関心を高めること、さらに平和を実現するための活動を推進しようとしていることがわかる。その際、学校だけでなく、地域で教育することが重視されている。非暴力の考えを普及することを目的とする館が少ないのは、憲法9条に戦争の放棄が明記されているように、非暴力は当然であると考えている人々が多いからかもしれない。国際理解の促進を目標とする団体も少ないが、地域にある戦争遺跡の保存に重点をおいているからかもしれない。海外にも同じように戦争遺跡を保存する動きがあるので、今後国際的視野で考えることが重要であろう。また紛争解決の仕方について、講座を開くような活動が少ないため、まったく知られていない状況なのかもしれない。

また「日本にはすでにたくさん平和博物館があります。なぜあなたは新しく平和博物館・平和資料館を創ろうと考えていますか」という質問に対して、次のような回答があった。

* 当センターは、1981年以来続けてきた「平和のための京都の戦争展」をバックアップし、継続した活動となるよう、資料の収集や海外への平和ツアーを計画、実行している団体です。所有資料の大半は、写真パネルです。(京都平和資料事業センター)

* 21世紀の平和とは、戦争だけではなく、学校、職場、家庭の平和を考え、環境、人権、福祉などの問題

を考えていきながら行動していきたい。（姫路市：はりまピースセンター）

＊ 地域に根差した身近な体験を残すため。（岐阜市平和館をつくる会）

＊ 2001年6月12日にハルビン市平房区「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」が整備公開された。新宿区にも「731部隊」の常設展示館が必要と痛感した。（新宿平和委員会）

＊ 長野県には、「平和博物館」的施設はありません。地域に平和博物館があることが大切です。長野県内には、「松代大本営平和祈念館」（仮称、民立）、信州大学赤レンガ兵舎「医学博物館」（仮称、国立）「飯田市平和祈念館」（仮称、市立）、「伊那市平和資料館」（仮称、市立）の計画が進行中です。平和資料館「きぼうの家」は、これらの運動の連絡センターの役割を果たしています。（松代大本営の保存をすすめる会）

＊ たとえささやかであるとも、市民の身近なところにミュージアムがあるのがよい。日本のすべての町や村の一角に、たとえ一坪の空間であろうともミュージアムがあるのがよい。それは日本のすべての市民が、戦争の加害、被害の両面から戦争の恐ろしさを知り、平和の尊さを知る上での大きな空間となると思うから。（宇都宮平和祈念館をつくる会）

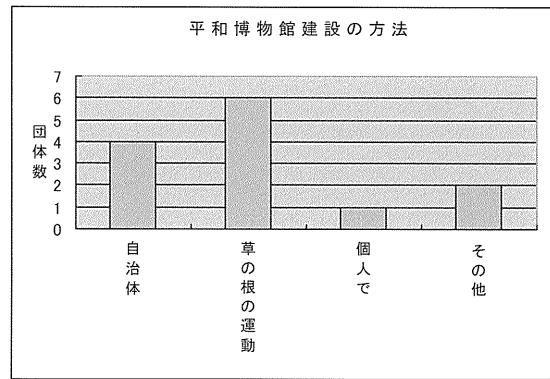
＊ 過去の戦争について知るために、そして今と未来の平和について考えるため、平和資料館は絶対に必要なものだと考えています。戦争を遠い他国でおこっていることと考える子供達が多く、郷土の地でもあった事、自分のおじいさん達も兵隊で戦争で他国へ行った事を知る事で、子供達の考えは変わります。世界の平和を考えるために、絶対に必要な物。そのために郷土に平和資料館は、ぜひほしい。（静岡平和資料センター）

平和博物館・平和資料館の建設を望んでいる方の回答には、たとえ小さくても地域に作りたいという強い願いを感じることができる。

2. 平和博物館・資料館の建設の方法

どのように平和博物館・平和資料館を建設したいかを問う質問に対して、次のような回答があった。

建設方法	団体数
自治体	4
草の根の運動	6
個人で	1
その他	2

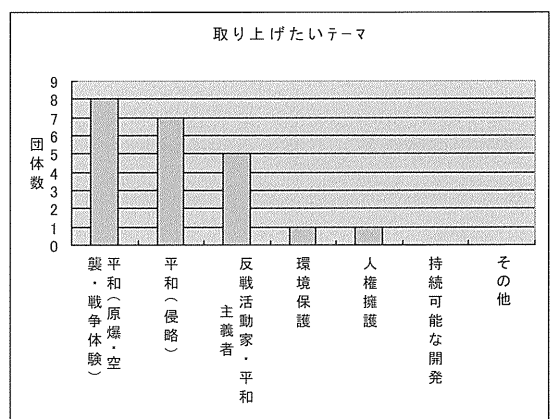


理想的には自治体で建設してほしいが、しかし1990年代から日本の侵略に関する展示に対して、右翼からの攻撃があり、草の根の運動、あるいは個人で建設して、自由に展示したいという思いがあると思うことができるであろう。

3. 展示したい内容

どんな内容で展示をしたいのかを問う質問をした。その結果は、次の通りである。

展示内容	団体数
平和（原爆・空襲・戦争体験）	8
平和（侵略）	7
反戦活動家・平和主義者	5
環境保護	1
人権擁護	1
持続可能な開発	0
その他	0

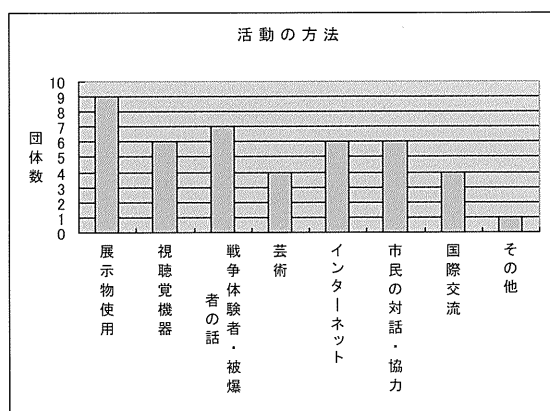


平和をテーマとする団体が多いが、公立の平和博物館・平和資料館と比べて、日本の加害の側面を重視していることが挙げられる。環境、人権、開発問題より、反戦平和に重点が置かれている。また学校で教えられていない反戦活動家や平和主義者を取り上げたいという姿勢に、注目する必要があるだろう。

4. 活動の方法について

どのように活動をしたいのか、質問した結果は、次の通りである。

活動方法	団体数
展示物使用	9
視聴覚機器	6
戦争体験者・被爆者の話	7
芸術	4
インターネット	6
市民の対話・協力	6
国際交流	4
その他	1



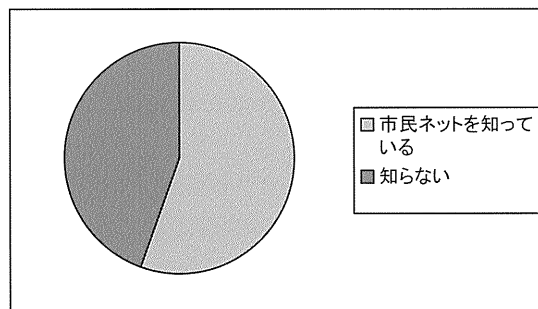
「展示物の使用」の次に、「戦争体験者・被爆者の話」が重視されている。また視聴覚機器とインターネットの使用だけでなく、市民の対話・協力も重視されている。単に平和博物館・平和資料館を訪問するだけでなく、市民の対話、協力が重視されていることは、興味深い。また芸術の活用や国際交流を重視している団体が比較的多いことも、注目に値する。

5. 平和博物館のネットワークについて

平和博物館のネットワークに関する調査結果は、次の通りである。

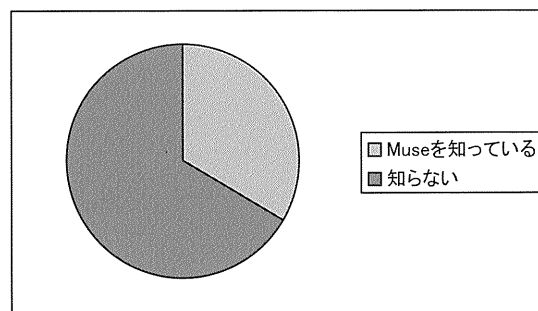
平和のための博物館・市民ネット	団体数
知っている	5
知らない	4

市民ネットの意義	団体数
情報入手、交流に良い	4
強化すべき	2
その他	0



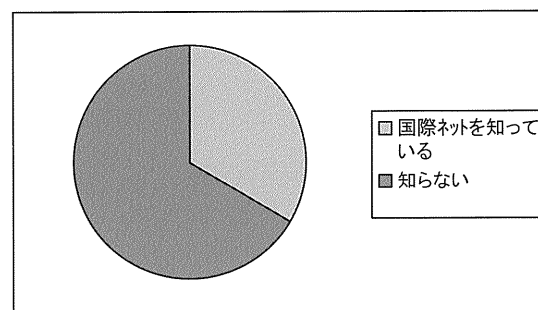
ミュージズとMuse	団体数
知っている	3
知らない	6

通信の意義	団体数
情報入手、交流に良い	3
良くない	0



国際ネットワーク	団体数
知っている	3
知らない	6

国際ネットの意義	団体数
情報交換、交流に良い	2
ネットワークの強化が必要	1
その他	0



以上の結果から、平和博物館の国内ネットワークは比較的知られているが、国際ネットワークはあまり知られていないことがわかる。

6. 印象に残った平和博物館・平和資料館

次に、訪問した平和博物館・平和資料館の中で、印象に残った館について質問をした。その結果は、次の通りである。

印象に残った平和博物館、平和資料館

北京の抗日戦争博物館、
 パリのレジスタンス博物館、
 韓国の独立記念館、
 立命館大学国際平和ミュージアム、
 ピース大阪、
 草の家、
 広島平和記念資料館、
 長崎原爆資料館、
 栃木県アウシュビッツ博物館、
 南風原文化センター

海外の博物館の訪問と、国際交流を重視する姿勢と関係があるように思われる。また国内の平和博物館では、戦争の被害だけでなく、加害の問題も取り上げ、バランスの取れた展示をしている博物館が、印象に残った館として挙げられている。

7. 平和博物館を建設する際の困難さ

また平和博物館を建設していく上で、困難なことについて質問をした。

困難さ

市民の関心低下、
 大きな世論になりにくいこと、
 自治体との関わり、
 市民に運動が広がらない、
 資金とスタッフ不足、
 国を動かすこと

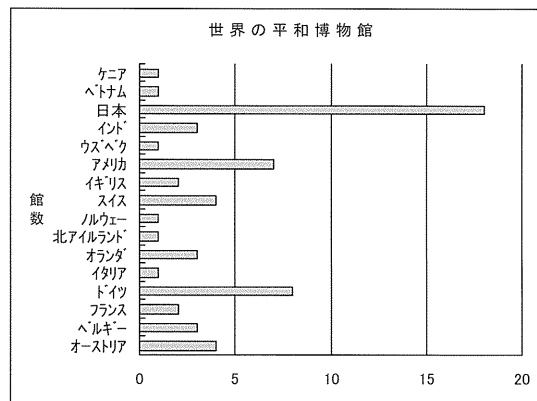
困難さは、現存している平和博物館・平和資料館にも共通している。今後どのようにしていけば良いのかを日常的に話し合える場として、会議やインターネットを通して交流を活発にしていけることが望ましい。

IV. 日本の平和博物館の特徴と今後の課題

1. 日本の平和博物館の特徴

日本は国際的に見て、平和博物館の数が非常に多いと言える。1998年に国連から発行された平和博物館のガイドブックによると、次の通りである。ただこのガ

イドブックに載せられた日本の平和博物館の数は、18館しかない。(50館載せてもいいのだが) それでも下記のように、他の国よりも圧倒的に多い。全体で61館掲載されているが、約3分の1が日本の平和博物館である。



日本には、戦争の悲惨さと平和の尊さを展示した反戦博物館が多い。同じく敗戦国であるドイツの反戦博物館などを訪問しても、戦争の悲惨さを展示している。しかし、もし訪問者がそのような展示を見て、絶望的になってしまうのであれば、問題である。このことは、以前平和博物館の国際会議で指摘されたことがある。平和博物館を、対話の場と位置づけるオーストリアの平和博物館、また紛争解決の力をつける場として位置づけているイギリスの平和美術館は、興味深い。平和博物館を訪問して、平和、人権、環境、開発など様々な問題を学ぶことには、大きな意義がある。しかし単に学ぶだけでなく、討論や対話で平和のために自分が何をすることができるのかを考え、行動できるようになることが望ましいであろう。実際、高知市の平和資料館「草の家」には、様々な団体が集まって、毎年平和コンサート、平和美術展、平和映画祭など多彩な活動が行われている。また若者が集まって、ピースライブなどを行っている。小さい平和資料館ではあるが、地域に根ざし、かつ国際的な活動も行っている。このような平和博物館のあり方は、今後引き続き話し合うべき重要な課題である。

日本の公立平和博物館・平和資料館における展示は、右翼からの攻撃でゆがめられてきていると言って過言ではない。海外の訪問者が日本の平和博物館を訪問した際、戦争による日本の被害ばかり強調し、加害の側面を展示していなければ、不公平であると感じても不思議ではない。その点、国立民営の場合、「財政難はあるが、活動の自由がある」（平和資料館「草の家」の西森茂夫館長の発言）ので、比較的自由に展示できる。だからと言って、現状のままで良いわけがな

い。本来公立の平和博物館がすべきことを、私立の平和博物館・資料館が行っているのであるから、県や市から財政的な援助があってもおかしくはない。

また日本の平和博物館・平和資料館は、草の根の運動によって建設されてきたが、今後さらに建設をしたいという運動があることは、心強い。このような動きを知って励まされる海外の平和博物館関係者は、多い。今後もっと草の根レベルで国際交流をすることが、望ましい。

2. 平和博物館のネットワークと今後の課題

これまで平和博物館の国際会議（1992, 1995, 1998, 2003）を通して交流をし、またイギリスのブラッドフォード大学のDr. Peter van den Dungenが編集されるNewsletterを通して、海外の活動を知ることができた。しかし今後は、もっと日常的に交流できる場が必要で、インターネットを活用していくことが求められている。

日本国内のネットワークである「平和のための博物館・市民ネットワーク」は、特に公立の平和博物館であまり知られていないことが、アンケート調査の結果明らかになった。今後大規模な平和博物館の組織である「日本平和博物館会議」と、「平和のための博物館・市民ネットワーク」が連携していく必要がある。両方の組織に関わっている立命館大学国際平和ミュージアムが果たす役割は、非常に大きいと思う。

また大規模な平和博物館だけでなく、小規模な平和博物館、今後平和博物館を建設したい団体も含めて参加できるような全国会議を開き、交流することが望ましい。

また国内において「ミュージズ」と“Muse”を知らない人が多いのは、残念である。私は、1992年以来ボランティアで海外のニュースを日本語で紹介してきた。最初は「草の家」便りで紹介し、1999年から「ミュージズ」で年2回海外の動きを紹介してきた。2002年11月に発行された「ミュージズ」では、最近英国ブラッドフォード大学修士課程を修了された小島健太郎氏が、海外の平和博物館のニュースを日本語で紹介するのをボランティアで手伝って下さり、非常に助かった。というのは、平和博物館国際ネットワークのニューズレターが、40ページに増えたからである。

また1999年以降全国の平和博物館のニュースを英文で年2回発信しているが、最近ニュースの量が増えてきたため、編集委員を増やす必要性を感じている。

（2002年12月発行のMuseは、20ページ）現在私は大学での仕事の傍ら、ボランティアで年4回ニューズレターの作成に協力しているのだが、将来は平和博物館の学芸員が分担して通信を作成する体制をつくる必要があると思う。そのためには平和博物館で学芸員を採用する際、語学力があり、パソコンを駆使できる方を採用することが重要であると思う。もし日本各地の平和博物館でそのようにすれば、「ミュージズ」とMuseの作成を交替ですることが可能になるであろう。また今後海外の移動展示物を日本各地で展示することが可能になるであろうし、日本の展示物を海外の平和博物館で展示することもできるであろう。

これまで海外の平和博物館と交流をしてきて、平和博物館の先進国である日本が国際的に果たす役割は、非常に大きいと思う。2001年フィリピンで国際平和研究学会アジア支部の会議が開かれ、平和博物館の話をする、「その存在すら知らなかった。フィリピンでは、平和運動が盛り上がる時はいいが、その後それが引き継がれることがない。平和博物館の活動を知ること、ガイドブックのようなものは、ありませんか？」と言われたことがある。日本で当然のように行っていることでも、海外では全く知られていないことがあることに気付き、改めて日本の平和博物館の果たす役割について考えさせられた。2001年のニューヨークでのテロ事件以降、アメリカはテロリストに対抗すると称して、戦争を正当化してきている。そのような中で、平和教育と平和の文化を創造する上で重要な役割を果たしている平和博物館の活動は、ますます重要になってきている。各平和博物館・平和資料館が、日常的な交流を地域、日本、世界で行えば、かなり大きな力を発揮することができるであろう。そのために今後各平和博物館は、国内ネットワークと国際ネットワークとの関わりを強化することが、問われているのではないだろうか。

当面2003年5月にベルギーで開催される平和博物館国際会議へ参加し、交流することに期待したい。私は、日本の約50館の平和博物館の名前と住所の英文リストを作成してベルギーの平和博物館へ送ったので、各平和博物館に招待状が送られているはずである。会議は英語で行われるので、英語で意志の疎通ができる方を代表に送ることも可能であろう。日本の平和博物館関係者が、多く参加されることを期待するものである。

（筆者 平和資料館「草の家」国際交流部）